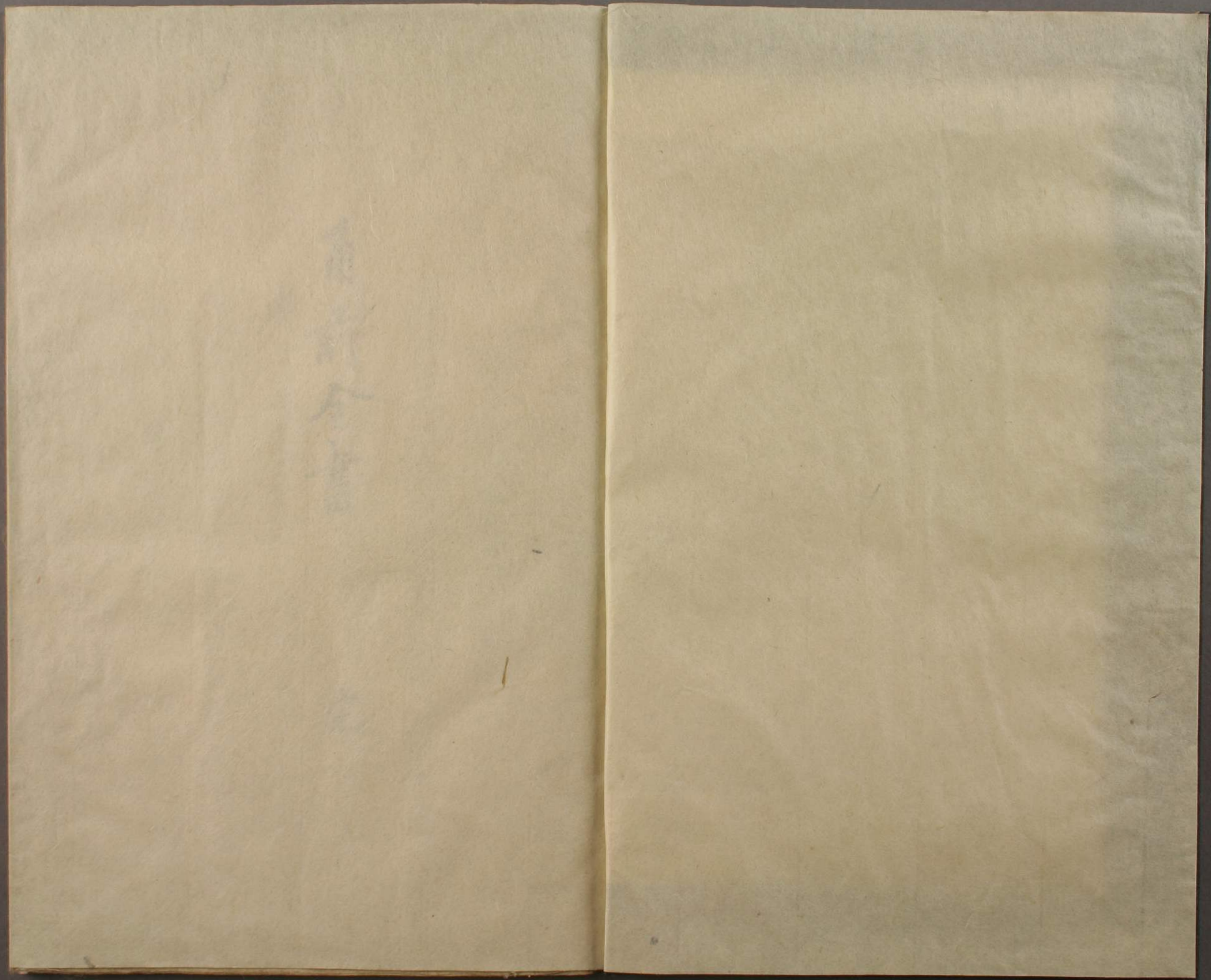


角前全書

洋学文庫  
文庫 8  
C 474









角前全書

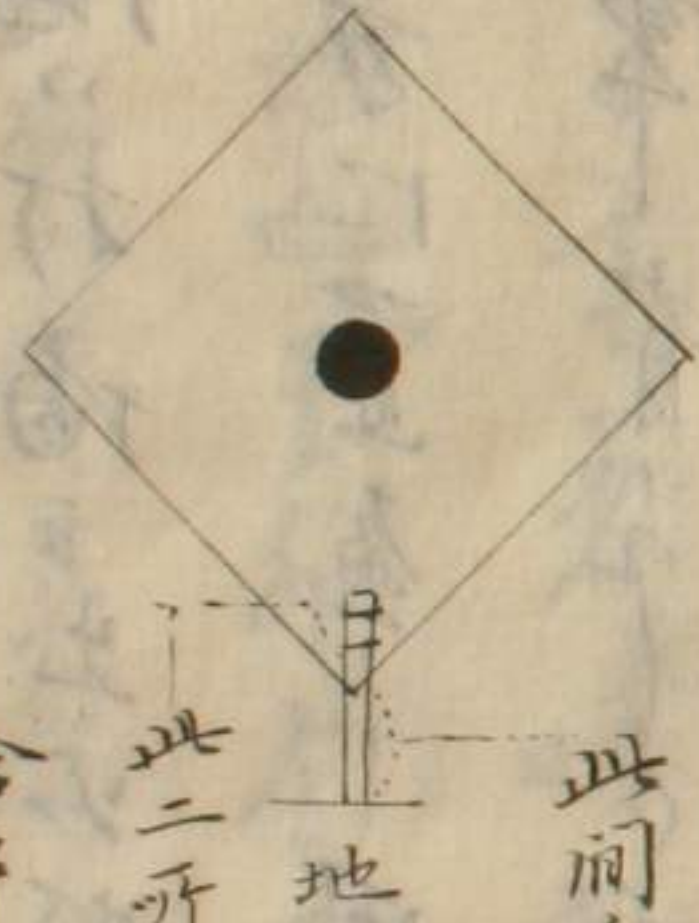
完





角場江出公得之事

一 諸道具込場に置失念物お母之申一  
通一政支より先砂を垂一水少くも  
角を建魚一



此間于一束四角八貳束

此二所より先結

合申八角を扱三本又附



一 火縄の打場は出火打を火を移し小屋  
の左方に置魚―用心才一あれは打場は  
入る事―有るく又回所を葎用也  
魚―以

二 筒を建置竹柳枝を巢中の尺を  
取銀子口火門を有るく又より長  
は揺り―短の物をも得了―揺業

打出と基本を破り大怪敵なり  
此処先念を―有るく其の巢口より  
もをこり―火門の善悪又  
引金の引味を―試魚―是の何程  
有るく暑晴雨あり―時刻にわか  
る物也其の金具の足は柳枝の枝  
より改―



一  
合より茶を量取に明茶入の蓋を  
一箇一糸を移以先と或中程迄  
玉敷を打手申丈夫に越ひ三  
帯并一帯迄丈夫より上の糸打固  
此魚の以打前以曲ゆるり玉  
中身より衣一重二重三重と着せ  
竹撥杖を込込菓中一風を切く入程の

こころより一衣澤山着る程の  
中より玉敷一玉を糸一志の  
魚一惣一々稽古よ一込替の  
杖を用ひ本極杖の度と  
口糸入一禮に越箇先を



土を又、大木に向ひ、葉を又、一、巢  
口を物に當てし、は、火箱より、火を、時  
筒と、年、ヤリ、又、三、間、所、を、と、て、し、  
石、向、て、し、火、箱、を、火、箱、と、し、  
揚、り、板、に、向、て、し、火、箱、を、板、と、し、打、後  
れ、せ、ん、所、一、是、を、筒、を、横、に、し、て、し、  
魚、を、以、左、の、氣、通、り、一、壁、に、打、打、揚、り、

出、火、繩、を、取、り、指、合、に、使、し、一、洞、を、し、  
角、の、高、通、り、一、座、一、支、り、者、素、た、め、の  
通、り、を、し、と、世、故、時、基、株、ほ、う、と、し、  
と、し、の、一、一、又、一、一、一、一、一、一、一、一、  
打、後、り、火、繩、の、一、一、の、所、を、置、火、を、と、し、  
巢、中、の、火、氣、を、吹、拂、火、を、と、し、  
筒、の、高、を、存、の、氣、通、り、一、壁、に、打、入、り、



一 筒を建置させ、布を水に濡らし、壁  
く緩くして竹櫛杖の先の穴に通し、巢  
中を拭ひ、火皿を掃除し、糸玉を込  
幾重に此へして、少くも間有らば、  
又も糸巢中を改魚し、此段は、  
急を急うして、我を調法を、人調  
法を、我筒に込置り、わらじを、  
以て、

一 一々込置して、半の筒を、  
又、込置して、間を、  
布を、  
向して、糸玉を、  
右子、  
一 若打糸の節、立消し、  
魚を、



お置をさし敷くく角に玉の中  
の玉に中見苗の玉を左に  
上よりさし押へ縁をさし火後を  
わけ火をさし火縄を五所を吹  
拂火蓋を明く子系より火氣を吹  
拂せしめをさし口系をさし筒を  
建し是迄左にゆるせりかきえ

盾しむ家初の口系のかい方又火縄  
の火をさしけしは玉消の玉を  
口系

一 打をさし火縄の火をさし寸程切  
し水消すし其外を落し  
全指改場所掃除を玉の脚を  
さし砂をさし水消す



打置了

一人之口を人の前跡の十文字の如  
み居つゝ以て名は出血飛又跡の筒  
を移して車一輛と

筒洗撮と車

一竹櫛杖の口は少きうを能程より  
過し筒を桶の中に入水を入

右の如くして洗ひ急き水出るを度  
水を取替洗ひ換換る也又水を取  
度と替る急き水のサ一も出ぬ程洗  
方狭く能くし一取に一取を湯  
を一面に能くぬらむと桶又二層の  
油を引一洗時を九急を去り破し  
火門は入通せし給うと洗ひ了



菓口吹通しの苦悪を改魚一

一金具の平附と之研の粉一油をさし

木綿を丸に附し磨り又麻切をせぬら

置一

角直一搦と事

一角の空一挽粉を粘りてふきし此免

置其上は紙を張ぶらんは水にハ

又の甘くぬを入ぬり置一

一寸と詰道具取集人由は角場水

計に調ふ一



